

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立馬渡小中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解のもと、一人一回の公開授業を行うことで研鑽を深め、思考力・判断力・表現力を育成する校内研究を推進できた。次年度はUD教育の推進を柱に据えて研究を進めていく。 食育については継続して取組をすすめ、よりよい食習慣・生活習慣の定着を図るよう、組織的にすすめる。 1人1台タブレットや電子黒板などのICTを活用した授業や長期休業や臨時休業時の課題やオンライン授業を推進し、学習保障を確実に進行。 中学校教員による小学校副担任制や、小学校への乗り入れ授業において一定の成果を挙げている。次年度も小中連携を推進し教育の質の向上を図るとともに、地域に開かれた学校づくりを行う。
2 学校教育目標	良さを見つけ、良さを伸ばす ～自分を愛し、周りの人を愛し、島を愛する児童生徒に～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①学力の向上) 授業・単元のユニバーサルデザイン化により、学びやすさ・理解の深まり・関心や意欲の高まりを目指す。 ②心の教育) 人権・同和教育や道徳教育を柱にしたUD教育の充実（児童生徒対応力の向上） ③健康・体づくり) 生活実態調査をもとにした家庭と連絡を取り保護者との連携 ④業務改善) パソコンやタブレットを用いた業務効率化の推進 ⑤小中・地域の連携) 小中一貫教育による開発的生徒指導の実践（出番一役割一承認）

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価			主な担当者	
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価 意見や提言		
●学力の向上	○ユニバーサルデザインの視点にたった授業実践	○ユニバーサルデザインの視点にたった授業実践を受けた児童生徒のうち、昨年より分かりやすくなったと答える児童生徒の割合80%以上	・児童生徒の実態に基づいた授業検討会を月に1度行う。全教員がユニバーサルデザインを意識した研究授業を年1回行う。	A	・学習が分かりやすいと答えた児童生徒が95%と、ユニバーサルデザインによる学習環境整備が整った。	A	・児童生徒に優しい取り組みである。ホワイトボードによる授業の流れやチョークの色の統一は児童生徒にとってわかりやすくなったと思う。	学習文化部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒75%以上 ●担任が、道徳の授業を年1回以上保護者に公開する。	・道徳の授業を中心に心の教育を実践する。 ・「唐津市教育の日」に、全学年『ふれあい道徳』を行い、保護者や地域の参加型の授業を実施する。	A	・心の教育を学校が取り組んでいると答えた保護者は100%で、身につけていると感じた児童生徒は90%であった。 ・全学年『ふれあい道徳』を行い、保護者や地域の参加型の授業を実施することができた。	A	・地域の方からも不登校がなくなり良くなったとの声を聞いている。また保護者とも遊んでいるところを見かけ、異学年、地域のつながりを感じる。	児童生徒育成部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員80%以上。 ●生徒会を中心として、人権活動を年1回以上行う。	・職員会議で情報交換を行う。 ・いじめの発覚または疑われる事案発生直後、いじめ対策委員会を開催する。 ・人権週間の設定と人権集会を開催する。	A	・いじめの発覚または疑われる事案発生直後、担任と管理職が情報共有をし、職員会議で全職員に情報交換を行っている。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員100%である。	A	・学年を超えて鬼ごっこやサッカーをして一緒に遊んでいるところを見かける。先生方がよく見てくれている。	児童生徒育成部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・夢や目標について目標の樹やよさの樹活用、マナー検定を通し自ら考えさせる時間を設ける。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒100%、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒が86%であった。	A	・先生方が褒めてくれることが子どもたちの自信につながる。新聞の「みんなの夢」に表れているように将来の夢につながっている。それが大人になって身についてくれたら嬉しい。	児童生徒育成部
	○自分や友達の良さを見つけ、それを発表する活動。	○自分や友達の様々な良さを認める肯定的意見が、年度末アンケートで、当初のアンケート結果より10%以上向上している。	・自分や友達の良さを見つけ、発表する活動をクラスの中で行う。徐々に発表の場を広げていく。	B	・いいねカードを活用し、自分自身の良さを放送で発表したり、全校朝会時に担任より伝えたりする活動を行った。 ・自分や友達の様々な良さを認める肯定的意見が、年度末アンケートで、当初のアンケート結果より5%向上し、85%と目標の10%向上にとどかなかった。	A	・子どもたちの良い自信につながっている。馬渡小中学校ならではの取り組みで良いと思う。	児童生徒育成部
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ②規則正しく生活を送っている児童生90%以上 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	①1週間に1回の合同レクリエーションを全小学生で実施する。また、小中学生全員での合同レクリエーションを月1回実施する。運動部活動を平日に4日、休日に1日実施する。 ②学校生活アンケートを月に1回実施する。 ③安全指導を月に1回実施する。	B	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒が67%であった。 ②規則正しい生活習慣が身につけているの回答した児童生徒は87%とわずかに届かなかった。 ③交通事故にあった児童生徒はいない。横断歩道の渡り方等、交通安全に対して意識を高く持つことができています。	A	・暑い頃にもサッカーなどをして遊んでいた。よく遊ぶ習慣が身につけている。自転車に乗っている子どもは見かけない。スケートボードなどは持って移動し、特定の場所しか遊んでいない。自分たちでも安全に気をつけているようだ。	保体部
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒90%以上 ○児童生徒の朝食摂取率100%	○給食便りや給食集会で食事に関する啓発活動を行う。 ○朝食摂取の啓発週間を設ける。	B	・健康に良い食事を心がけていると回答した児童生徒は80%であった。 ・毎日朝食を食べている児童生徒は95%であった。	A	・家庭でもしっかり食べている。食べてすぐ寝るといったこともしていない。元氣よく遊んでいるので、食事もしっかりとれているのではないかと。	保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・協働による業務を推進する。 ・定時退勤日、部活動休業日を確実に実施する。	A	・年間を通して時間外在校時間の上限を超える職員はほとんどいない。11月以降は全ての職員が上限を順守している。	A	・昔としたり遅く帰っている先生は少ない。暗い中、女性の先生が帰っているのを見ると怖くならない心配。	管理職
	○タブレットPCを活用した業務効率の改善や教育の個別最適化の推進	○意識調査において、タブレットPCを授業や評価に活用していると回答する教員85%以上	・タブレットPCを効率的・効果的に活用するための研修を行う。	B	・teamsやオクリンクなどを使って課題や児童生徒間の共有等を行った。 ・タブレットPCを授業や評価に活用していると回答する教員84%とやや下回った。	A	・授業中に子どもが書いている画面をリアルタイムで見ながら先生が授業を進めている。家でもタブレットを使って調べ学習をしている。昔とは違うことに驚いた。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							主な担当者	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価 意見や提言		
○連携(小中・地域)	○小中学校職員の協働による教育実践	○中学校教員による授業や学活の時間等を好意的に受け止める児童の割合が80%以上	・中学校教員による乗り入れ授業と小学校副担任制の充実を図る。	A	・児童は乗り入れ授業を楽しみにしており、児童保護者ともに、肯定的な意見が100%であった。	A		・良い取り組みだと思う。小学校と中学校のつながりができる。
	○島の様々な資源を活用した教育活動の実践	○学校行事や授業への島民の参観や参加、ゲストティーチャーとしての参加回数が年に20回以上	・学校だけでなく、口コミで行事前に告知を行い、授業参観に来てもらう。 ・島民に、ゲストティーチャーや授業の参加者としての来校を促す。	A	・学校だけでなく、多くの島民の皆さんにも参加していただいた。 ・総合的な学習における調べ学習や発表会で協力や指導、参加をしていただいた。干物づくり、キター練習等でも丁寧な指導をしていただいた。	A	・ぜひ継続して欲しい。魚のさばき方など葉みん上手だった。地域の経験、伝統行事等が生かされているのは嬉しい。	学習文化部 保体部
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解のもと、一人一回の公開授業を行うことで研鑽を深め、環境整備、授業の構造化等の教育のUD化についての校内研究を推進できた。本年度に培った取組を来年度も継続して取り組んでいく。 心の教育について保護者、児童生徒ともに高い評価を受けた。引き続き心の教育、児童生徒の良さ見つけの取り組みを進めていく。 他の児童生徒との意見交流をする時間を設けてはいるものの、その時間が児童生徒の資質・能力向上に結びついているとは言いづらい。適切な手段で協働的な学習を仕組むための研究が必要である。 							